

1 全体計画

◎考える子 ・思いやりのある子 ・元気な子



平成26年度学校経営方針 「あいさつがすてきな学校」

- ・「自分の考えをもち、伝え合える子を育成」する授業づくり
- ・学習態度、学習規律を保って、互いに学び合う態度を



本校のとらえる「確かな学力」

○学習や生活のもとになる力(基礎的・基本的な知識・技能) ○課題を解決する力

○自ら進んで学習に取り組む意欲 ◎考える力、伝える力



平成26年度の指導の重点

<p><重点教科・国語科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを聞く力、自己の考えを深める思考力を育成する。 ・自己の考えを広める表現力を育成する。 <p><各教科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究力、表現力の育成を目指す。 ・個別やグループ指導、少人数学習集団による指導など指導方法を工夫する。 <p><道徳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。 	<p><特別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団生活を通して協力してよりよい学級や学校生活を築こうとする自主性や積極性を高める。 <p><総合的な学習の時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究力の育成を目指す。 ・学んだことを自ら発信する。(情報活用能力) <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の居場所と活躍の場を設ける。統一した指導。 ・敢えて負荷をあたえ、自己肯定感、自己有用感を <p><進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進 ・上級学校の授業体験
---	---



授業改善の視点				
<p>指導内容・指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動、体験的な活動、問題解決的な学習などを実施する。 ・発問を工夫する。 ・ICTを活用する。 	<p>教育課程編成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別学習やパワーアップタイムを活用する ・算数科における少人数学習指導を実施する。 ・読書活動を推進する。 	<p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとの全体計画や評価規準を整備し、指導と評価の一体化を図る。 ・児童の自己評価及び教師の授業評価を実施する。 	<p>校内研究・研修の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考える子の育成のための校内研修を実施する。(話し合う。観察し合う。教え合う。学び合う。一緒につくる。) ・年間3回の研究授業を実施し、全教員の授業を公開する。 	<p>家庭・地域との連携の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化を図るため、学習課題を工夫するとともに、家庭の協力を求める。 ・ノート指導の徹底を図る。 ・保護者、地域の方々のアンケートを活用する。

各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字力、文章表現力、語彙力を高めるために、学年に応じて視写、聴写、日記、作文、意味調べ等、書く活動を多く取り入れる。 ○読解力を高めるために、音読を重視する。また、考えたことをまとめてそれを発表したり、話し合ったりすることを多く経験させる。 ○話を聞く時は、聞く目的を明確にさせる。聞く力をつけるために、インタビューをしたりゲーム的に聞く力をつける活動を取り入れたりする。 ○授業の中でも小集団での話し合い活動を入れて、聞く・話す力をつける。 ○異学年や保護者に発表する場を設ける。 ○学校内で共通理解を図りながら、話し方・聞き方に対する指導を行う。 ○他の人に伝える力を育てるために、話す目的や話す相手を明らかにして、伝える方法を明らかにして取り組めるようにする。
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○視写や文字の練習に時間がかかる子供もいる。 ○言葉をまとまりとして捉えられず、音読が詰まる児童がいる。 ○一斉指導の際に話を聞くことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことの指導方法。 ○発声、発音、発表の仕方の指導の工夫。 ○聞き方・話し方など学習の約束の指導方法。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別的指導の工夫。 ○言葉遊びを取り入れた音読学習を行い、語彙を豊かにするとともに、言葉の楽しさに気付かせる。 ○話の終始に注目させ、聞くことへの意識を高める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○音読・視写・文字の練習など、集中して意欲的に取り組む。 ○書くことについては基礎的な力についてはついてきているが、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動の充実を図る。学習形態の工夫。 ○授業内容の定着を図るため、ワークシート等を活用した指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚的に興味を持たせたり、学習形態を色々取り入れたたりし、興味を持たせる指導の工夫。 ○できる喜びを多く感じさせる小さな課題設定をする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○読書を好む児童が多く、読む能力は目標値を上回る。 ○書く力に個人差があり、苦手意識をもつ児童も多い。 ○聞く、話す能力についても、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことへの意欲を高める指導方法の工夫。 ○相手の意見を聞き、自分の考えや思いを言ったり書いたりできるような指導方法の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の学習の中で、書くことを多く取り入れたたり、書く型を提示したりして、書くことを日常化し、抵抗感をなくす。 ○話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えをみんなに伝える喜びを味わわせる。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ○話す・聞く能力は目標値を上回る。 ○読書を好む児童が多く、読む能力は目標値を上回る。 ○書く能力は上位と下位に大きな開きがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読みを深める指導方法。 ○指定された長さや構成で文章を書けるようにする指導方法。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い活動により、感じ方や考えの違いの理解を図る。 ○語彙力を高める活動を日常的に取り組む。活用する場を設定し、定着を図る。漢字ミニテストを定期的実施し、家庭学習で繰り返し練習し漢字の定着を図る。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の伝えたいことを的確に言葉で伝えることが苦手な児童が多い。 ○書かれていることの内容を十分に理解できない児童が多い。 ○漢字の習熟、言葉の使い方については個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○論理的に思考し、これを生き生きと表現できる力を培うための指導方法。 ○文章を読み取る力を育てる。 ○語彙力・表現力を育てていく指導方法。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを发表或し、相手の考えを聞いたりする活動を多く取り入れられるようにする。 ○音読指導に力を入れる。 ○漢字力、文章表現力、語彙力を高めるために、実態に応じて書く活動を多く取り入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○読書には積極的に取り組む児童が多い。 ○書くことに関して、自分の考えを明確に伝える力がある児童が多い。 ○話すこと・聞くことが苦手な傾向がある。特に自分の考えを自信をもって発表することが苦手な児童が多い。 ○漢字を書くことについては、習熟に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読みを深める指導方法。 ○論理的に思考し、これを生き生きと表現できる力を培うための指導方法。 ○発表する力と聞く力を高めるためのスピーチの工夫。 ○漢字力を高める指導方法。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物と自分の考えや気持ちと比べて、批評する力を養う。 ○書くことにおいても論理的な表現ができるよう、主語と述語の関係や、文章の組立てについても考えていくよう指導する。 ○話す力が高まるよう、最初は個人で考えをまとめ、小グループで発表して意見を交流する学習スタイルを確立させる ○国語のみならず他教科の書く活動でも既習の漢字を使えるよう丁寧に指導する。

(2) 社会科

<p>社会科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・調査・見学などの体験活動を行う。インタビュー取材など進んで取り組めるようにする。 ○資料を見て推測したり、複数の資料から考えられることを導き出したりする活動を取り入れていく。 ○地図や表・グラフから、必要な情報を選び出し、正しく読み取り、自分の考えをもつことが出来るようにする。 ○地域の実態を生かし、体験的な活動や表現活動の充実を図る。 ○授業の導入時に、地図等を活用した簡単なゲーム（例：地図当てゲーム）やクイズ、実物などを取り入れ、子どもの興味・関心を図る。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○地域めぐり等の体験学習に意欲的で、体験を活用できる。 ○社会的に物事を見たり考えたりする体験が少ない。 ○資料活用（地図やグラフ、表の読み取り）が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的な事象について興味を持って取り組めるような工夫。 ○地図やグラフ、表に慣れ親しむような指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の生活の中から、社会的な出来事を取り上げて、話題にすることを日常化し、社会科の学習に意欲をもたせる。 ○地図を身近に置き、地図を活用する時間を多くとる。 ○ゲーム形式などで、地図記号に慣れ親しませる。 ○調べたことを、表や、グラフに表す機会を多くとる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○体験学習に意欲的で、集中して見聞きしメモすることができる。 ○資料から読み取ったことを言語化することが苦手な児童が多い。 ○課題解決に向けて必要な情報を選ぶことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りや活用方法の指導 ○課題を解決するための手順や必要な資料選びの指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料から読み取ったことを意見交換しあい、着眼点を押さえるなどし、共有化を図る。 ○少人数グループで課題に取り組むことで課題解決の活動や、表現活動に取り組みやすくする。 ○いくつかの資料を用意した中から、必要だと思うものを選択させる。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○地図帳など視覚的な資料の活用に意欲的である。 ○資料から実態や様子を読み取ることに、苦手意識をもつ児童がいる。 ○どうやって課題を解決したらよいかわからない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を持って解決していく学習の定着 ○課題を解決するための手順や必要な資料選びの指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の活用をより有効にできるよう手順や方法を明確にし、事柄について整理する学習を取り入れられるようにする。 ○課題解決学習を授業に位置づけ、ノートづくりを生かしながらその解決を図るよう指導する。 ○産業、社会の様子についての調査方法の工夫を行う。 ○グループ学習を生かして、課題解決のための資料を、みんなが選び出せるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の学習や、歴史上の人物に興味・関心を示している児童と、反対にそうでない児童との差がある。 ○資料等の読み物や視覚に訴える教材に関心をよく示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な分かりやすいノートづくりの指導 ○歴史的事象に疑問をもたせ、学ぶ意欲を喚起させる授業づくり。 ○ICT 教材の効果的な活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞等にまとめたりする活動を適宜入れる。 ○課題解決学習を授業の中心に位置づける。 ○インターネットやビデオなどの情報を地デジ対応テレビの大型モニターに映すなどして、視覚的教材の活用を図る。

(3) 算数科

<p>算数科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業的・体験的な活動など、算数的活動を積極的に取り入れる。 ○自ら課題を持ち、よりよく問題を解決できるように、学年に応じた問題解決学習方法を考え、指導の徹底を図る。 ○児童の興味関心、疑問から生まれた課題を大切に、皆で共有する。 ○少人数学習集団のコース別で学習することによって、一人一人のペースに合った学習を行い、成功感・達成感等を与える。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン			
分析内容		指導上の課題	改善案		
1年	○数量と数字が感覚的に結びついていない児童がいる。	○数概念の理解や数量感覚を豊かにする指導。	○具体物を使っての操作活動を重視していく。		
	○習熟度に差がある。			○絵や図を用いて問題場面を把握されるように工夫する。	
	○計算の正確性				○計算練習プリントを朝学習等で取り組む。
2年	○計算の仕方の理解はおおむねできているが、計算が遅かったり正確にできなかったりする児童もいる。	○計算力を定着させるための繰り返し計算練習の推進。	○体験を通して数や概念の理解をさせていく。3分間計算に取り組ませる。		
	○量と測定でつまづく児童が多い。			○身の回りの具体物を使って量感を養う活動や操作活動の工夫。	
	3年				○量と測定を苦手としている児童が多い。
○計算の仕方の理解はおおむねできているが、習熟度には個人差がある。		○より計算力を付けるための工夫。	○繰り返し上がり・繰り返し下がり、九九を徹底させるように、宿題や朝学習等で取り組む。		

4年	<ul style="list-style-type: none"> ○計算の技能はおおむねできている。 ○図形の性質を利用することでは個人差が大きい。 ○応用問題を苦手とする子や、抵抗感のある子が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士の教え合いを効果的に活用した授業方法。 ○少人数学習集団による指導方法の改善。 ○具体物を用いたり、説明したりする活用の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なことから発表を数多く体験させ、自分の考えが認められることの楽しさを味わわせる。 ○少人数担当との連携を密にして、学力向上アシスタントの活用方法を考える。 ○具体物を扱う活動や操作する活動を計画的に取り入れる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度において、個人差が大きい。 ○既習事項が身に付いていない児童に、意欲の低下がみられる。 ○教科書の問題に物足りなさを感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業的・体験的な活動など、算数的活動の指導上の工夫。 ○個に応じた指導方法。 ○教材を活用する活動の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考え方の筋道がはっきりとしたノートとなるように、解決過程で用いた式の意味を説明する活動を取り入れる。 ○少人数指導担当教諭との連携を密にして、より一層、児童の実態に応じた授業展開を組み立てる。 ○進度に合った、また生活に生かせる教材教具を作成し、授業で取り入れていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○計算の技能は高い。 ○課題を把握してから答えを出すまでの手順が多いと、避けようとする傾向がある。 ○教科書の問題に物足りなさを感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を確かめるプリント学習の指導方法と教材開発。 ○自分の解決方法を説明する学習の指導。 ○教材を活用する活動の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい単元に入る前に、関連する既習事項を足場として復習をする。 ○子供の習熟度に合わせ、スモールステップで学習が進められるよう学習課題を用意する。 ○進度に合った、また生活に生かせる教材教具を作成し、授業で取り入れていく。

(4) 理科

<p>理科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の課題を明確にし、段階ごとの教材の準備を早めに行う。特に植物教材を計画的に栽培する。 ○児童が課題・問題を見つられるような授業の導入をし、それに対する仮設（予想・理由）を立て、観察や実験を通し検証や追究できるようにする。 ○実験で達成感、成功感を味わうことができるよう、ねらいや方法、留意点を明らかにする。 ○全員が主体的に活動することができるように、学習課題を班全員で確認し役割分担を明確にする。 ○観察や実験の記録や結果を相手に分かりやすいように書いたり話したりできるノート作りを進める。 ○実験や観察の結果を表やグラフ、レポート等にまとめさせる指導を行う。 ○予想・実験・結果の順序を踏んで理論的に考えていけるようにする。（ノートに書くことをもとに） <p>図表やグラフなど資料から必要な情報を探し、活用し、考えをまとめるよう心がける。</p>

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
		指導上の課題	改善案
3年	○植物や昆虫に関心をもって観察や飼育をし、学習している。	○科学的な見方の基礎をしっかりと身に付けさせること。	○日常生活の中から、科学的な出来事を取り上げて、話題にすることを日常化し、理科の学習に意欲をもたせる。
	○自然体験が少ない児童が多い。		
4年	○観察・実験に意欲的に取り組んでいるが、科学的な思考へ結びつかない。	○具体的な活動と、そこで得られる知識を広げる指導が必要。	○観察・実験の結果を考察する話し合いをし、各自表現させる。
	○自然観察や実験に興味をもち、課題に意欲的に取り組む。	○科学的な見方を身に付けさせること。	○日常生活の中から、科学的な出来事を取り上げて、話題にすることを日常化し、理科の学習に意欲をもたせる。
4年	○実験が好きで活動的な体験に意欲的である。	○ものづくりをとおした指導の工夫。	○得た知識や技能を生かしたものづくりをさせる。
	○論理的に考えたり伝えたりできない児童がいる。	○得た知識や技能を定着させ、広げる指導。	○理由を明確にした予想を発表したり、ノートを見せ合ったりするなど、自分の考えを交流させる場を設定する。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○自然観察や実験に興味をもち、活動的な体験に意欲的である。 ○説明を正確に聞きとることが十分でなく、説明を聞かずに始めようとする児童もいる。 ○生活経験や手先の器用さに左右されることがあり、作業終了に時間差がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つまずきやすい箇所を重点的に説明する。 ○課題をしっかりとつかませ、どのように解決したらよいか考えさせる。 ○理科での知識を日頃の学校生活でも活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚的な教材・資料を多く活用し、児童の理解を助ける。 ○予想→実験→まとめの順序をしっかりと踏んで、課題解決の方法を自分たちで考えられるようにする。 ○実験の記録やまとめを行う際に、図や表を取り入れながら分かりやすく書くことをノート指導で徹底する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○科学的事象について、自分の考えで予想したり、結果から考察したりする力が不足している。 ○質問に対してははっきり答えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然現象の変化を、仮説に基づき、分析的に思考し、要因を追求し、結果を導き出し、科学的に考えるように指導する。 ○課題をしっかりとつかませ、どのように解決したらよいか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを発表する場を設定し、自分の予想を決めさせる。 ○観察や実験の結果から分かったことを話し合わせ、より多くの人が妥当と考える結論（分かったこと）を導き出す。 ○予想→実験→考察の順序をしっかりと踏んで推論しながら考えていけるようにする。 ○実験の結果が出た根拠を、実験方法や変化の様子を振り返りながら確かめさせる。

(5) 生活科

<p>生活科の重点</p> <p>○表現する力をつけるために、まとめや伝え合う方法を工夫していく。(グループ内発表、ポスターセッション、劇化、新聞、カードなど場面や対象の変化、機器の利用など子供どもが興味・意欲を持って取り組み、成就感を味わっていけるよう支援する) →他教科との関連を持たせ、幅広い学習活動にする。</p> <p>○記録やまとめの際には、取り組みやすいようにフォーマットを用意する。(論理的な表現ができるように工夫する。)</p> <p>○体験活動の場をより多くして、気付き・発見の場をふやしていく。(教室での飼育活動、他学年との学習活動、地域巡り、地域の人々(高齢の方や障害のある方など多様な人々との交流活動など)</p> <p>○一年生と二年生が普段の学校生活の中で交流していけるようにしていく。</p>
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1. 2年	<p>○学習活動に興味・関心をもち、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○日常の生活の中で、大勢の友達と体を動かして遊ぶ経験や同学年・異学年の友達とかかわる機会が少ない。</p> <p>○自分から進んで声を掛けて遊ぶことができる児童がいる反面、一人で遊ぶことを好む児童やかかわり方が分からず友達とかかわることができない児童がいる。</p> <p>○都市化が進んだ学校であるため、自然に触れる機会が少なくなっている。</p>	<p>○体験を重視した活動を工夫することにより、自信をもたせ、成就感や達成感を味わわせ、学習意欲を次への学習活動につなげる。</p> <p>○同学年・異学年、地域の人々との交流を重視した活動を取り入れ、人とのかかわりを深めていく活動の工夫。</p> <p>○継続的に動植物に触れる機会の設定。</p> <p>○学校周辺や地域とのかかわりをより深めていく活動。</p> <p>○自分自身の成長や自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動の工夫。</p>	<p>○児童の発想や主体性が生かされるような活動、表現方法の工夫をし、他教科等との関連を図り、柔軟な指導計画を作成する。</p> <p>○体験や多様性を重視した活動計画を作成し、言語活動との関連を図りながら知的な気付きを大切にしていく。</p> <p>○年間を通し、1・2年(仲よくなろう会、学校探検など)、異学年、地域の人々(幼稚園児との交流、公園探検・町探検・伝承遊びなど)との交流の場を設定することで、人とのかかわりを重視した活動を設定する。</p> <p>○年間を通して、継続的に動植物と親しく接する活動を設定。</p> <p>○年間の単元構成の中に、地域につながる活動を位置付けていく。</p> <p>○年間を通して自分のできるようになったことや自分のよさや友だちのよさに気付き、自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもてる活動を設定する。</p>

(6) 音楽科

<p>音楽科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽のよさを感じ取り、思いや意図をもって表現したり全体を味わって鑑賞したりする力を育てる。 ○合唱や合奏など、音楽を全員でつくっていく体験を通して、感じる感動、喜びを共有し味わわせる。 ○音楽から感じ取ったことや、どのような思いや意図で表現をしたいかなど、言語活動を生かしていく。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に興味・関心を持ち、歌や楽器演奏、身体表現などを楽しんで行う。 ○鍵盤ハーモニカ、リズム楽器の演奏技能に関しては、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽活動に対する個々の意欲の向上。 ○段階的な指導や能力に合わせた教材の研究、開発。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わらべうた・身体表現を用いて、リズム感などを身に付けさせたり、常時活動で楽しんでできる活動を取り入れる。 ○個々の演奏技能や表現力を高めるために、友達同士の教え合いや、個に応じた指導や支援、指導の工夫（技能定着のための反復練習）を行う。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーの練習や歌唱に積極的に取り組む児童が多い。 ○曲のイメージを考えて、歌唱や演奏に生かせるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○呼吸を意識した歌唱や、タンギングなどの基礎的な技能の確実な定着。 ○曲のイメージや曲への思いを表現できるような手立てを身に付ける。 ○共通事項を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な技能を楽しく繰り返し学べるよう、常時活動の内容を工夫する。 ○友達と聴き合ったり、見合ったりする中から、具体的な手立てを共有し身に付けていく。 ○表現・創作・鑑賞を関連付けた指導内容を工夫する。

高学年	<p>○意欲的な学習態度で積極的に取り組む児童が多く、表現においてもそれぞれの個性を生かしたものになっているが、内容において個人差が大きい。</p> <p>○演奏表現はそれぞれ出来上がるが、豊かな表現まで至っていない児童もいる。</p>	<p>○演奏表現における豊かなイメージ作り、基礎的・基本的な技能の定着。</p> <p>○個々の表現を大切にし、その力を伸ばす指導・支援の在り方。</p> <p>○音楽の要素を理解させ表現に生かす。</p> <p>○音楽科における言語活動の充実。</p>	<p>○思いや意図を書いたり、伝え合ったり、見合い聴き合ったりすることにより、イメージ作り、基礎的・基本的な技能の定着を図る。成就感、達成感が味わえる題材の工夫や教材を選択をし、共に表現することの喜びを味わわせる授業を展開する。</p> <p>○演奏表現できる場面を増やし、個々の表現を認め合えるようにする。</p> <p>○共通事項により、音楽を分析しながら聴き取れるように学習させ表現に生かす。</p> <p>○感じ取ったことを書き表したり、友達に伝えたりなどの活動を増やす。</p>
-----	--	---	--

(7) 図画工作科

<p>図画工作科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形活動の最も大切なねらいを「想像と創造」の力の育成と考える。着想・発想・構想などのひらめく力「想」の力と作り出す力としての「創」がバランスよく融合するような活動を 目的意識的に追究していく。そのための教材開発・提示の工夫・支援や評価の工夫を行う。 ・手や体全体を使うなど、諸感覚を活用した作品作りを行う。 ・美的感性を磨き、高める。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
低学年	かきたいこと、作りたいものをのびのびと楽しく表現できる。	<ul style="list-style-type: none"> ○体全体を使っての造形遊びの学習活動の不足。 ○絵の具の使い方、用具の扱い方等具体的に一つ一つ丁寧に教える時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が手や体の働くままに活動を進め、自分の表したいことを見つけられるように共感を中心に支援をしていく ○年間を見通してよりよい題材を選び、幅広い活動ができるようにする。
中学年	<p>新しい題材について興味関心を持ち進んで取り組む。</p> <p>まだ表現力が十分身に付いていない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○造形的な見方・考え方や基礎基本を定着させる学習活動の不足。 ○個々の表現を大切にし、その力を伸ばす指導や援助 	<ul style="list-style-type: none"> ○造形的な見方・考え方や基礎基本を一人一人に確実に身に付けるためのカリキュラムを見直し、学習活動の時間を確保する。 ○個々の表現に応じて、弾力的な指導をする。また、一人一人のよい所をほめ、その子なりの表現を大切にしながら具体的な支援をしていく。
高学年	<p>新しい題材について興味・関心を持ち意欲的に取り組む。</p> <p>表現力が十分身に付いていないため、豊かな自己表現ができない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○造形的な見方・考え方や基礎基本を定着させる学習活動の不足。 ○一人一人の能力や実態に即した指導や援助 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のねらいを明確にし、基礎的・基本的内容を押さえた指導をする。（指導内容・カリキュラムの厳選） ○制作時間と技量を踏まえた、その子らしい表現を支援する。 ○完成した達成感、満足感、充実感が味わえるよう、児童が表したいことをもとに、今までの造形体験を生かし新たな試み、作り出す喜びを味わわせる授業を展開する。

(8) 家庭科

家庭科の重点

○自分の生活や生き方をより充実したものに、豊かなものにするために日常生活を見直すことの大切さを知らせ、日常生活の中での課題を見だし、解決方法の工夫を考えさせ実践できるようにしていく。

○家庭での実践を自主的に行われるようにするために、実践的・体験的な活動を一層重視すると共に、より確実な知識や技能を身に付けさせるために個別指導を多く取り入れていく。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
		指導上の課題	改善案
5. 6 年	<p>○衣服等の布製品が布を縫い合わせてできているという意識が薄く、針と糸を使って布で物を作る経験も少ない。</p> <p>○調理実習は好んで取り組む。</p>	<p>○学校で体験したり学んだりしたことを、実生活の中で実践する力を付けていく指導の工夫。</p>	<p>○作品作りに際しては、相手意識や目的意識をもたせ、作りたいという意欲につなげていく。</p> <p>○家族の一員としての自分の役割を意識させ、学習後や長期休業中にカードなどを使用して、実践に結び付ける。</p> <p>○住まいに関する正しい知識や快適な暮らし方を知ること、自分の生活を振り返り、反映できるようにする。</p> <p>○環境問題への観点から、自分の日常生活をグラフ化させて振り返らせ、改善する点について考えさせる。</p> <p>○少人数で調理実習計画を立てさせ、見通しをもって調理させることにより、調理の基礎基本を身に付けさせる。</p> <p>○作品の作り方をより理解しやすくするために、作業工程に合わせた見本や写真を提示する。</p> <p>○多様な資料を活用して、食に関する意識を高める。</p> <p>○自立した生活を行うために、家事を行うことの大切さを伝えていく。</p>
	<p>○調理実習は好んで取り組む。</p> <p>○環境やエネルギーの問題に関心をもつ児童が増えてきている。</p>	<p>○生活を楽しんだり豊かにしたりするために、自分ができることを考えさせ、家族と自分のかかわりについて考えさせる指導の工夫。</p> <p>○見通しをもった活動ができるような活動計画</p> <p>○ものづくりの観点からの、キャリア教育の推進。</p>	

(9) 体育科

体育科の重点

- 児童が、主体的に運動に取り組めるようになるために、発達段階に応じた指導をする。
 - ・低学年…各種の運動の基本的な動きを身に付け、だれとでも仲よく、協力して取り組もうとする力。
 - ・中学年…各種の運動を楽しくできるようにするとともに、きまりを守ってお互いに協力し合っ
て運動に取り組もうとする力。
健康な生活と体の発達について理解する力。
 - ・高学年…自分の課題解決の方法を考え、運動の仕方を工夫し、協力・公正の態度を身に付け、
運動に取り組もうとする力。
心や体の健康について理解する力。
- 体育朝会等において運動や遊びを紹介するなど、普段の生活の中での運動がより身近なものとな
るよう働きかけていく。(中休みの活用…全員が外遊び。マラソン週間・大なわ集会の取り組み。)
- 運動会の演技については、達成感が得られるよう、全校で取り組む。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことが好きな児童が多い。 ○運動経験の個人差が大きい。 ○ゲームや遊びのルールが守れない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが運動を楽しめるように、教材・教具・場などの工夫が必要である。 ○集団行動の基本を身に付けさせるために、ルールを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童相互のかかわり合いを大切にする学習の場を設定する。(互いに運動している姿を見合う活動等) ○集団で楽しめるゲームや遊びを意識的に取り入れる。 ○運動の簡単なきまりを作り上げる学習を実施する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことが好きな児童が多い。 ○いろいろな運動の経験が少ない。 ○走る・跳ぶ・投げる・とるなどの基本的な動きがぎこちない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が好むような運動に偏りがちになる。 ○体育の時間は、体を多く動かす時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な運動経験をさせる。 ○鉄棒やマット運動など、普段の生活ではあまりしない運動を取り入れて、体幹を鍛える。 ○ゲーム的な活動を取り入れて、楽しみながら運動を行わせる。 ○ルールを簡略化し、説明の時間を短くする。

3年	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことが好きな児童が多い。 ○いろいろな運動の経験が少ない。 ○走る・支える・投げる・とるなどの基本的な動きがぎこちない児童もいる。 ○生活環境を整えることが必要な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動を楽しめるように工夫して、意欲的に学習が進められるようにすること。 ○友達と競い合う楽しさや達成感を味わえるようにすること。 ○生活環境が体の発育・発達にも繋がることを理解させる工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的なめあてをもちやすくするために学習カードを作成してポイントを押さえる。 ○児童が互いに運動している姿を見合ったり、「学習カード」を活用したりし、よりよい動きに高めていく方法を考えさせる時間を設定する。 ○ゲームやボール運動では、児童自身がルールを工夫したり、チームの作戦を話し合ったりし、楽しく取り組める運動内容を工夫する。 ○長期休業後を重点的に、生活リズムの見直しをする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に運動に取り組む、準備や片づけを協力して進んでできる児童が多い。 ○自分のやり方に固執しチームプレーがとれない児童がいる。 ○遊びを通したいろいろな運動の経験が少なく、動きに偏りのある児童がいる。 ○肢体不自由で同等の運動が困難な児童がいる。 ○生活環境を整えることが必要な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動を楽しめるように工夫して、個に応じた学習が進められるようにすること。 ○友達と競い合う楽しさや達成感を味わえるようにすること。 ○きまりを守ってお互いに協力し合って運動に取り組む楽しさや達成感を味わえるようにすること。 ○生活環境が体の発育・発達にもつながることを理解し実践すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々に具体的なめあてをもちやすくするために、学習カードや運動の場を工夫する。 ○児童が互いに運動している姿を見合ったり、「学習カード」を活用したりし、よりよい動きに高めていく方法を考えさせる時間を設定する。 ○ゲームやボール運動では、児童自身がルールを工夫したり、チームの作戦を話し合ったりする時間確保し、思考力を鍛える学習にする。 ○長期休業後を重点的に、生活リズムの見直しをする。

5年

- 体を動かすことが好きで、意欲的に運動に取り組める児童が多い。
- 自分のやり方に固執しチームプレーがとれない児童、また、逆に周囲に合わせるだけで、自らの役割を果たせない児童がいる。
- 生活環境の重要性や、心の発達についての理解できていない児童がいる。

- グループで競い合う運動のなかで、児童間のかかわり合いを通して技能を高め、協力、公正の態度を育てること。
- 体力を高める運動なども、楽しく学習に取り組めるような指導の工夫が必要である。
- 生活環境が心の発達にもつながり、その対処についても理解させる必要がある。



- グループ活動を取り入れ、互いのかかわり合いを大切にしたい活動と、練習方法を確立する。
- 具体的なめあてをもちやすくするために学習カードや運動の場を工夫する。
- 児童が互いに運動している姿を見合ったり、「学習カード」を活用したりし、よりよい動きに高めていく方法を考えさせる時間を設定する。
- ゲームやボール運動では、児童自身がルールを工夫したり、チームの作戦を話し合ったりし、楽しく取り組める運動内容を工夫する。
- 生活環境の見直しと共に、コミュニケーションの場を設定し、心の発達の理解を深める。

<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育が好きな児童が多く、意欲的に学習に取り組んでいる。 ○技能の個人差は大きい。 ○技能を向上させようと、練習に取り組んでいる。 ○生活環境の重要性や、心の発達についての理解できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで競い合う運動のなかで、児童間のかかわり合いを通して技能を高め、協力、公正の態度を育てること。 ○技能の個人差が大きいこと。 ○体力を高める運動なども、楽しく学習に取り組めるような指導の工夫が必要であること。 ○生活環境が心の発達にもつながり、その対処についても理解させる必要があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで作戦をたてる時間を設け、試合で実行できるようなグループ活動を取り入れる。 ○スモールステップでの活動と練習方法を確立する。 ○児童が互いに運動している姿を見合ったり、「学習カード」を活用したりし、よりよい動きに高めていく方法を考えさせる時間を設定する。 ○ゲームやボール運動では、児童自身がルールを工夫したり、チームの作戦を話し合ったりする時間を確保し、心身を効果的に鍛える学習をさせる。 ○生活環境の見直しと共に、コミュニケーションの場を設定し、心の発達の理解を深める。
-----------	---	--	--